予算執行

予算執行に対する町長の考えは

情報の共有と協議が必要／町長

問

町長は就任して約1年になり、町政運営の問題点や課題が見えてきた事と思うが、当初予算について聞きたい。

23年度において一般会計で約83億5千万円を計上しその内、民生費に19億6千万円、教育費に13億1千万円、福祉や教育、産業振興に重点をおいた予算ではある。

実際22年度の予算執行をすることで、いろいろと考える事があったと思う。町民の福祉向上のためとはいえ、法的な制約や黒潮町には財務規則があり、自由に支出が出来るものでもないし課題や問題点などを考えながらの一年だったと思う。そして最も大切なことは、計画を持って予算計上し、予算の執行については、その効果を確認していくことが必要と感じたのではないか。

23年度予算にしても緊急雇用対策など補助事業を多く計上している。その効果は、町にとっては良い事ではある。しかし23年度をもって終了する事業の取組みや継続の有無などを考えながら執行することが必要である。

教育予算にしても予算書だけを見れば多額の配分となっているが、耐震対応や新校舎建設などハード事業が多くあり、本来の教育予算の効果なども考えた予算執行でなくてはならないと考える。

産業振興についても同じことが言えると思うが、23年度予算の執行について町長としての考えを聞きたい。

答　**大西町長**

問題点や課題について的確に捉えているか確信はないが、自分なりに1年間を振り返って、反省すべき点は庁舎内での情報の共有、あるいは協議の時間をもっと取るべきであったと思っている。

特に庁舎内においては町の将来像、関係各機関とは関係する産業全般の協議の時間がもっと必要であった。

個別の施策や課題についての議論であり、自分の判断も全体を考えた判断が出来ていないと感じている。

23年度の予算執行に当たっては、個別の案件の協議にも全力で取組み、全体を把握した判断をしなくてはならないと反省している。

執行した予算の効果等についても担当職員との協議や意志疎通を図りながら検証していきたい。

佐賀駅前に設置されたカツオのモニュメント